

1. 計画の概要について

計画名	石川県における公共交通の維持整備に関する計画		
答申主体	(旧)中部地方交通審議会石川県部会		
策定年月	平成7年6月	目標年月	2010年
対象交通	鉄軌道、バス、タクシー、旅客船等		
対象地域/ 計画の構成	石川県全域とし、3つの交通圏(能登、石川中央、加賀)に区分し、各交通圏内、各交通圏間及び県外との交通について検討 計画の構成 ・基本的な事項 ・広域交通に関する事項 1. 県外及び交通圏間 ・地域交通に関する事項 1. 石川中央交通圏、2. 能登交通圏、3. 加賀交通圏		

2 . 計画のレビュー（総括）

視点1：人々のモビリティを確保し、暮らしを支える公共交通の維持整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
生活バス路線の維持確保への取組み	石川県では、H14 から国庫補助対象とならない生活バス路線に対し補助する制度を創設し、生活バス路線の維持確保に努めている。また、H13 奥能登地域の西日本JRバス撤退に際しては、沿線市町村、事業者等と協議して、代替交通の確保を図っている。
タクシーの積極的な活用	のと鉄道穴水～輪島間の廃止代替バスでデマンドバスシステム、志雄町で乗合タクシーデマンドシステムを導入するなどITS等を活用して地方における交通サービスの向上に努めている。
利用しやすい鉄道輸送の確保	能登地域で昼間は上記のタクシー車両を利用するバスとタクシーを使い分けた交通サービスが実施されている。また、能登空港開港に合わせ、空港と目的地を結ぶ乗合タクシーが運行されている。
離島航路の維持活性化	のと鉄道では、新駅の設置（H6 七見駅）や通勤・通学者のニーズに合わせたダイヤ編成を行うとともに、企画商品の開発や沿線自治体におけるノーマイカーデーの実施により、利用促進に努めている。
	輪島～舳倉島航路においては、国、石川県、輪島市で協調して、運航欠損補助を行い、維持に努めている。H9には新船を導入して高速化を図り、利便性の向上を図っている。

視点2：都市活動を支え、利便性が高く、信頼性の高い公共交通の整備

主な課題や実施する施策	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
<p>バス利用の利便性の向上</p> <p>都市内鉄道の輸送サービスの向上</p> <p>都市交通におけるITS等の積極的な活用</p>	<p>金沢市では、バスを活用したまちづくりを目指し、H10年度より国、県、金沢市及び事業者が連携して金沢オムニバスタウン計画を推進している。</p> <p>金沢市の「ふらっとバス」をはじめ16市町で市内循環型コミュニティバスが導入されている。また、金沢市の都心と新県庁を中心とする副都心をむすぶ「シティライナー」がH15.1から運行されている。</p> <p>北陸鉄道では浅野川線金沢駅の地下化（H13.3）によるJR金沢駅との乗継利便向上や運行本数の増加等により輸送サービスの向上に努めている。</p> <p>金沢市内でバスロケシステムの拡大やハイグレードバス停のシェルター、上屋、移動案内の整備が進められている。また、バスロケを活用して携帯電話などから閲覧できる「バスく～る」システムが稼働している。</p> <p>H15年度から金沢市内を通る全てのバスにICカードを活用した運賃支払いシステムを導入する予定となっており、これに合わせて乗り継ぎ割引制度の拡大を検討している。</p> <p>H15からの5年間でPTPS対応光ビーコン40基を整備する予定となっている。</p>

視点3：地域の自立を保障し、地域内交流・連携を促進する公共交通の整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
地域内都市間バス路線網の充実	H15.5 現在で石川県内の特急バスの運行状況は金沢～能登方面 28.5 往復、金沢～加賀温泉 2 往復、輪島～和倉温泉 6 往復となっている。

視点4：地域に活力を与え、他地域との交流連携を強化する広域高速交通ネットワークの整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
<p data-bbox="219 451 636 534">広域鉄道的高速化と輸送サービスの向上</p> <p data-bbox="219 742 636 825">広域高速バスネットワークの充実</p> <p data-bbox="219 885 636 968">航空路の充実及び空港へのアクセス改善</p>	<p data-bbox="712 451 1995 534">石川県では、基本スキームに沿った北陸新幹線の整備推進のための負担金を支出したほか、新規着工への要請活動を実施している。</p> <p data-bbox="712 595 1995 678">ＪＲ北陸本線においては新型車両導入による時間短縮と運行本数の増加、特急はくたかの加賀温泉駅までの延伸を図っている。</p> <p data-bbox="712 738 1995 821">H15.5 現在、金沢発着で東京・横浜8往復、名古屋10往復、京都5往復、新潟2往復、仙台1往復、高山・松本各2往復、前橋1往復の高速バスが運行されている。</p> <p data-bbox="712 882 1995 1013">小松空港からは、日に羽田便がダブルトラックで11便のほか、鹿児島、福島、広島、沖縄、仙台、札幌の各都市と定期便が運航されている。また、H15.7 開港した能登空港からは、日に羽田便が2便運航されている。</p> <p data-bbox="712 1074 1995 1204">H15.5 現在、小松空港では、金沢市とは全便に接続して39本、加賀温泉とは3往復の特急バスが運行されている。また、能登空港では、空港と目的地を結ぶ乗合タクシーを運行しているほか、奥能登特急バスの一部が空港を経由している。</p>

視点5：海外との有機的な交流の促進に資する交通ネットワークの整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
国際航空路の充実	小松空港では、ソウル便が週3便就航しているほか、チャーター便が年7便就航した。
国際航路の充実	金沢港では、釜山航路のコンテナ船が週3便、北米航路の在来貨物船が月1便定期就航している。

視点6：個性ある地域づくり、観光振興と一体となった公共交通の整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
<p>地域観光振興を支える公共交通の整備</p> <p>国際観光支援</p>	<p>金沢市では、「城下町かなざわ周遊号（レトロバス）」を運行している。運賃が200円均一、1日乗り放題500円と低廉に設定されている。</p> <p>石川県では、大河ドラマと連携した県外からの誘客の実施、能登半島の観光資源を活用した企画商品の開発により輸送需要の掘り起こしを推進している。</p> <p>のと鉄道では、企画列車の運行を行って誘客に努めている。</p> <p>能登の夏祭り、金沢ナイトイベント等では、のと鉄道、路線バスの増便を行っているほか、金沢市では、GWにP&Rのシャトルバスとして「兼六園すいすい号」を運行している。</p> <p>定期観光バス路線は、H15.6 現在で金沢市内めぐり2コース、能登めぐり7コース、加賀巡り1コース、東尋坊・永平寺コースめぐり1コースが運行されており、能登空港の開港に合わせて能登めぐり3コースが新設された。</p> <p>国際観光テーマ地区として、石川県内で29市町村が指定されている。</p> <p>小松空港、JR金沢駅では、案内表示が多言語化されている。</p>

視点7：誰もが利用しやすく、快適でシームレスな公共交通の整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
交通旅客施設等のバリアフリー化の推進	<p>石川県では、H14 から国庫補助の対象とならない鉄道駅、バス停整備のためのバリアフリー補助制度を創設した。また、民営タクシー事業者や高齢者・障害者等の外出支援サービス事業者等に対し、回転シート付き車両、車椅子のまま乗車できる車両の整備に要する経費の補助を行っている。</p> <p>1日利用者5,000人以上駅では、エレベーター化率40%、エスカレータ化率40%、スロープ化率40%、多目的トイレ60%、点字ブロック100%とバリアフリー化が推進されている。金沢市では、バリアフリー基本構想を策定するとともに、オムニバス計画により高齢者、障害者等にやさしいバス停整備、低床バス導入を行っている。</p>
交通旅客車両等のバリアフリー化の推進	<p>北陸鉄道では、5編成に車椅子スペースのある車両を導入しており、H15.3末現在、県内の乗合バス595台のうちノンステップバスは62台、ワンステップバスは24台導入されており、全体導入率は14.5%となっている。</p>
乗り継ぎのシームレス化等	<p>金沢市内を通る全てのバスにICカードを活用した運賃支払いシステムをH15から導入予定であり、鉄道・バスの共通カードも検討中である。</p> <p>北陸鉄道グループ全体で、満70歳以上を対象とした鉄道・路線バス全線の定期「シルバー定期券」を発行している。</p>

視点8：環境にやさしい公共交通の整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
<p>マイカー交通等における環境負荷の低減</p> <p>低公害車の導入</p> <p>マイカー交通から公共交通への利用転換</p>	<p>金沢市などでエコドライブ運動などを実施している。また、バス事業者ではアイドリングストップ機能付きバスの導入や停車時のアイドリングストップを実施している。</p> <p>白山登山のためのルートでシーズン中マイカー規制を行っている。</p> <p>石川県低公害車普及促進協議会等を通じ、啓発を図っているところであり、バスでは金沢ふらっとバスで3両の小型CNG車が導入されており、H15年度に大型CNG車1両が導入予定である。全体ではH15.2現在でCNG車19両、ハイブリッド車958両が導入されている。</p> <p>金沢市では、毎週月曜日をノーマイカーデーとして市民にマイカー自粛を呼びかけている。また、S63から観光期、H8から通勤時のP&Rを実施している。</p> <p>北陸鉄道バスでは、環境定期券として「通勤定期券ファミリー割引」を実施している。</p> <p>北陸鉄道石川線では期間及び持ち込み駅限定ではあるが、サイクルトレインを実施している。</p>

視点9：気象・災害に強い安心安全な公共交通の整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
<p data-bbox="219 443 640 480">冬季における安全輸送の確保</p> <p data-bbox="219 831 640 911">マイカー運転者等の安全走行への協力</p>	<p data-bbox="714 443 1850 480">各市町村の雪害対策において、乗合バス路線は1次除雪区間に指定されている。</p> <p data-bbox="714 539 2004 624">第7次踏切事故防止総合対策実施計画(H13～17)により、計画箇所50%、全踏切1.3%にあたる5箇所立体交差化がなされている。</p> <p data-bbox="714 683 2004 767">金沢市内では、バス運休・遅延等の場合には、主要バス停の「音声報知装置」やバスロケシステムで遅延等の情報提供を行っている。</p> <p data-bbox="714 826 2004 911">石川県交通安全対策会議を中心として、関係機関と交通安全に対する意識向上に努めているほか、安全走行への協力を県広報誌等で呼びかけている。</p>